



Title	A Study on the Contemporary Utilization of the Javanese Urban Heritage and its Effect on Historicity
Author(s)	Ikaputra
Citation	大阪大学, 1996, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/39738
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	イカプトラ IKAPUTRA
博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	第 1 2 5 0 4 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 8 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 工学研究科環境工学専攻
学 位 論 文 名	A Study on the Contemporary Utilization of the Javanese Urban Heritage and its Effect on Historicity (ジャワ都市の歴史遺産の今日的利用とその歴史性に対する影響に関する研究)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 鳴海 邦碩 教 授 東 孝光 教 授 笹田 剛史

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、インドネシアのジャワ島都市における歴史的環境保存のための手法確立に資することを目的に、重要な歴史都市である王宮都市の空間構造およびその中核的な都市環境要素の特性を明らかにするとともに、歴史遺産の実態をその環境管理の主体との関連性において明らかにすることを通じて、歴史遺産の今日的利用が環境の歴史性保存に貢献しうることを王宮都市ジョクジャカルタを中心に論じたもので、内容は序章および本文 5 章からなっている。

序章では、急速な都市化・近代化の進行に伴い都市の歴史遺産の喪失が危惧されているジャワ島都市における歴史的環境保存の概況および本研究の目的と構成について述べている。

第 1 章では、ジャワ島における 14～18 世紀の間に建設された 8 つの王宮都市を取り上げ、基本的な都市パターンおよびその変容過程および実態について文献調査および実態調査に基づき分析し、さらに都市の歴史性保存のために今日的に重要と判断される歴史的都市環境要素を抽出し、事例を用いてその位置付けおよび実態について分析している。

第 2 章では、ジョクジャカルタの歴史的な環境の文脈保全の上で重要な役割を果たしていると判断される貴族の屋敷について、その建築的遺産としての位置付けおよびその敷地の都市機能上の役割を明らかにすることを目的として、49 の事例を取り上げ文献調査および実態調査に基づき、立地上の特性、周辺地区の変容過程、敷地・建築の形態、およびその敷地が貴族のみならず一般の人々の居住地となっていることの基底に存在する伝統的な土地ないし家屋の借用システムについて分析している。

第 3 章では、ジョクジャカルタの今日的な都市環境における貴族の屋敷の役割の変遷を分析する目的で、上記の屋敷地における一般の人々のコミュニティの形成の実態、商業機能等の新たな機能の導入の実態、およびそれに伴う空間変容について、聴取・実態調査に基づいて分析している。

第 4 章では、都市拡大や都市活動の成長によってもたらされる土地の有効利用へのニーズに対する貴族の屋敷の変容傾向を明らかにする目的で、ジョクジャカルタおよびもう一つの重要な王宮都市であるスラカルタにおける貴族の屋敷の居住者の居住理由およびその変遷について聴取調査に基づき分析し、さらに両都市あわせて 94 の貴族の屋敷を対象とし、屋敷地の所有および管理の主体と新たな導入機能との関連性について調査・分析している。

第 5 章では、ジョクジャカルタにおける歴史的な都市環境を保存するための新しいアプローチを組織立てることを目的として、第 1 章から第 4 章までの考察を踏まえて、新たな機能を導入しつつ歴史遺産を保存することの意義と可能性について論じ、その基本となる文脈的適合性の概念について述べている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、急速な近代化・都市化が進行しているジャワ島都市において、その社会経済状況にふさわしい歴史的環境保存手法の概念の定立を目指したもので、王宮都市の空間構造の特性およびその重要な構成要素である貴族の屋敷群の実態および歴史性保存上の役割について文献研究・事例研究を通して分析した知見をまとめたものである。得られた結果を要約すると以下の通りである。

- (1)これまでジャワの王宮都市の基本的な都市環境要素は王宮、広場、モスク、市場の4つであり、広場の南に王宮、西にモスクが隣接して位置するのが基本形とされてきたが、8事例のうち3事例が広場の中心性は変わらないものの王宮およびモスクの配置がこれに当てはまらないことを明らかにしている。
- (2)代表的な王宮都市であるジョクジャカルタとスラカルタを事例に、これら都市の成長過程において貴族の屋敷の建設はその先導的な役割を果たしており、この貴族の屋敷群の配置に着目することにより王宮都市の歴史的環境の全体的な構造が把握できる、と同時に今日的な都市環境においてもその存在が歴史性保存に貢献していることを明らかにし、貴族の屋敷を王宮都市の基本要素の一つとみなすべきことが示唆されている。
- (3)貴族の屋敷内には無料もしくは低賃料による伝統的な空間借用システムに基づいて貴族以外の一般的な人々のコミュニティが形成されており、初期（1932～1960）には貴族ないしは既居住者と何等かの関係をもった者の入居が大半であったが、次第にこれらとは関連をもたない者の入居が増加していることを明らかにしている。このことは、貴族の屋敷が農村地域から都市への移住者の受入れ場所になっていることを示している。
- (4)貴族の屋敷の所有には、王宮所有、個人所有、政府所有の3つのタイプがあり、ジョクジャカルタ、スラカルタとも王宮所有の大半に一般の居住者のコミュニティの存在がみられ、政府所有にはみられないことを明らかにしている。さらにジョクジャカルタでは個人所有にも上記コミュニティの存在がみられ、一方個人所有が優勢であるスラカルタではその存在がみられないことを明らかにしている。
- (5)伝統的な空間借用システムに基づく一般的な人々の居住は、貴族の屋敷における伝統的な空間価値を保存し商業機能の導入等によってもたらされる急激な変化を制御することに貢献している、と同時に都市における居住空間の欠乏を補っていることを示し、このことから歴史的環境の文脈に適合した居住を含む今日的な機能を導入することによって歴史的な環境の保存をはかることは、ジャワの社会経済状況において有効な手法となりうることを示唆している。

以上のように、本論文は、ジャワ島の王宮都市の基本的な空間構造および中核的な都市環境要素の特性を提示するとともに、歴史的環境保存のために文脈の適合性という新たな概念を導き出し、歴史的環境の凍結的な保存が困難なインドネシアのジャワ島都市の状況に即した提案を行っており、環境工学の発展に寄与する所大である。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。